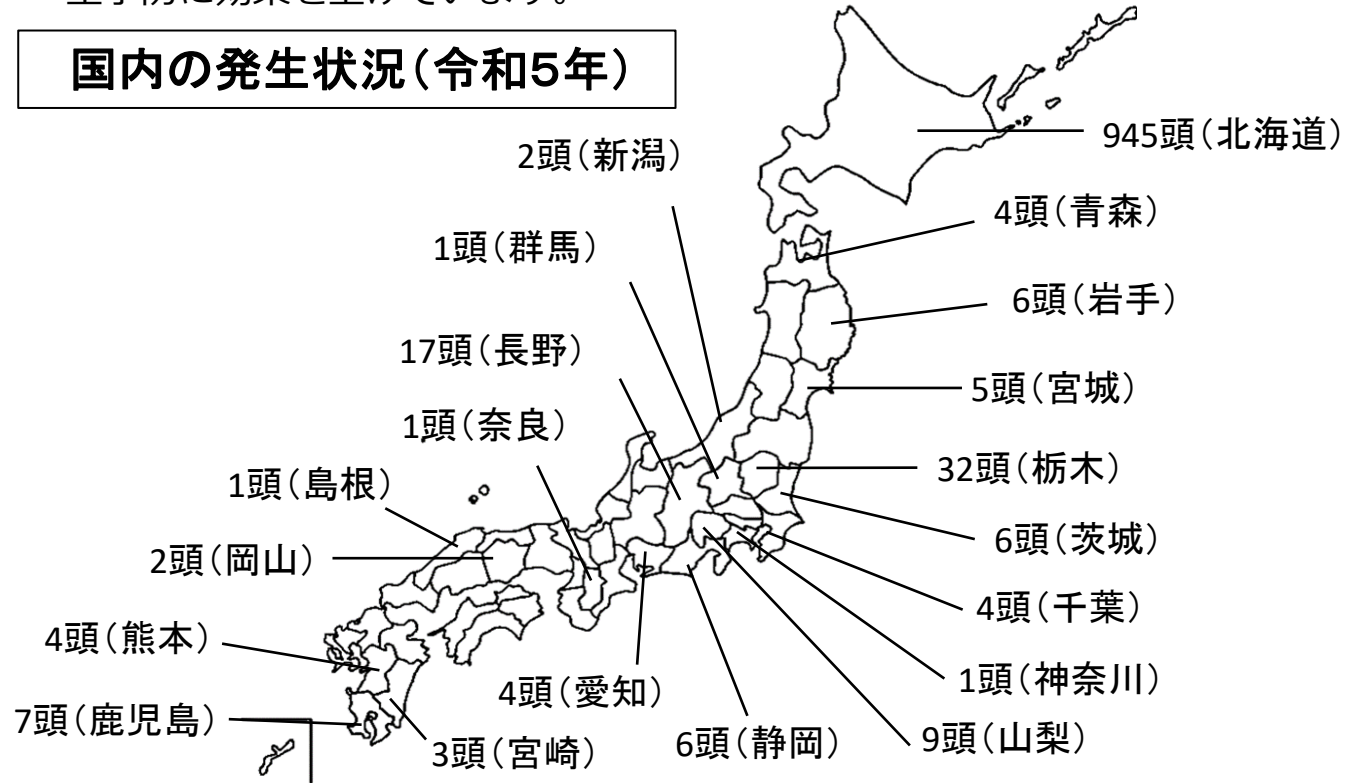


ヨーネ病の発生状況と効果的な対策

【ヨーネ病とは】

- 牛、めん山羊などの反芻動物が細菌（ヨーネ菌）に感染し、数か月から数年間と長い潜伏期間の後に下痢、泌乳量の低下などを起こす疾病です。
令和4年、5年の県内での発生は認められていませんが、国内では、発生が継続して認められる大変やっかいな疾病です。
- 岐阜県では、家畜伝染病予防法第5条に基づき、隔年で検査を行っており、県外から導入された牛については、農家等から検査の依頼をいただき、県内の発生予防に効果を上げています。

国内の発生状況(令和5年)



【県外導入牛の検査】

- 県外から乳用牛、肉用繁殖牛（6ヶ月齢以上）を導入された場合、速やかに家保までご連絡ください。
- 導入後、検査を行いますので、陰性が確認されるまでは、隔離して飼育を行ってください。

<従来から行っている抗体検査：750円、遺伝子学的検査：2,820円>

※検査手数料がかかります。依頼者は検査方法を選択できます。

【予防対策など】

- 治療法やワクチンは、ありませんので、定期的な検査による感染牛の早期摘発、淘汰が重要となります。
- 日頃から、環境が病原菌に汚染されていることを疑い、敷料や牛糞は、そのまま草地などに還元せず、発酵温度65℃以上になるよう十分、切り返しを行ってから、堆肥利用してください。